

# 大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書

(令和4年度事業)

令和5年10月

大郷町教育委員会

.....

## ～ は じ め に ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロール<sup>※</sup>により、政治的中立性、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映を図るものとして、戦後わが国に導入され、地方教育行政の基本的な制度として定着しています。

また、地方分権の進展や教育に関するニーズの高まり、教育委員会の担任業務の多様性や専門性などから制度創設時から現在に至るまで、随時、制度改正を重ねてきました。

このような中、平成 18 年 12 月の教育基本法の改正及び平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成 20 年 4 月から施行されました。

この改正法の大きな柱の一つであります「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、効果的な教育行政に資するとともに住民への説明責任を果たすため、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うことが義務付けられました。

本町教育委員会においては、毎月、教育委員会定例会を開催し、教育行政に係る基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施策に関する研修、教育施設への視察など、事務局と連携しながら積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めてきました。

令和 4 年度は、令和 2 年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け 2 年となりました。小・中学校では、前年度のような長期間の臨時休業までには至りませんでした。短期間の学級閉鎖、様々な感染防止対策を講じながらの授業や学校行事になり、多くの工夫を行うことで学校教育活動が継続されました。また、学校給食では黙食が継続され、社会教育では長期間、施設の閉館や事業の中止が余儀なくされました。

本報告書は、今後のさらなる効果的な教育行政の推進に資するために、学識経験者のご意見等を踏まえ、令和 4 年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、点検・評価を行った結果であります。ご高覧のうえ、ご指導を賜りますようお願いいたします。

令和 5 年 1 0 月

大郷町教育委員会

.....

※「レイマンコントロール」は、専門家だけの判断に偏ることなく、住民のニーズを適切に施策に反映させる仕組みである。

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書  
(令和4年度事業)

目 次

I	点検・評価の概要	1
1	点検・評価の趣旨	1
2	点検・評価の対象及び方法	1
3	学識経験者の知見の活用	1
II	大郷町教育振興基本計画（抜粋）	2
1	大郷町教育基本理念	2
2	大郷町教育基本方針	2
3	計画体系図	3
III	令和4年度大郷町教育基本方針（教育重点施策）	4
IV	教育委員会の活動状況	7
V	教育重点施策等の点検・評価	10
1	学ぶ力と自立する力の育成	10
	重点施策1 幼児教育の推進	10
	重点施策2 基礎・基本を重視した確かな学力の定着	11
	重点施策3 小・中一貫教育の推進	15
	重点施策4 きめ細かな特別支援教育の充実	19
2	国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成	23
	重点施策1 国際理解教育、外国語教育の充実	23
	重点施策2 健康でたくましい子どもの育成	25
	重点施策3 「ふるさと教育」の推進	28
	重点施策4 夢や志を持った児童生徒の育成	29
	重点施策5 安心で安全な学校給食の提供	32
3	安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備	33
	重点施策1 安心安全で開かれた学校づくりの推進	33
	重点施策2 教育相談体制の推進	34
	重点施策3 時代のニーズに即応した教育環境の整備	40
	重点施策4 上級学校進学への支援	42

4	学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進	43
	重点施策1 地域全体で子どもを育てる環境づくり	43
	重点施策2 協働教育推進事業の展開	46
	重点施策3 放課後子ども教室事業の推進	46
5	生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進	47
	重点施策1 社会教育・生涯学習事業の推進	47
	重点施策2 青少年の健全育成の推進	51
	重点施策3 ライフステージを踏まえた公民館事業の展開	52
	重点施策4 地域文化・芸術の振興	54
	重点施策5 文化財の理解と保存・継承	55
	重点施策6 生涯健康・生涯スポーツの推進	56
VI	点検・評価に対する学識経験者の意見	59

# I 点検・評価の概要

## 1 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価を実施する。

## 2 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象事業は、令和4年度教育基本方針に基づく重点施策や具体的な事業等を対象とし、主な取り組み状況について教育委員会内で点検・評価を実施した。その後、教育委員会内での点検・評価内容について、学識経験者の知見を活用してご意見等をいただき、その結果を取りまとめた報告書を議会に提出するとともに、町民に公表する。

## 3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の実施にあたっては、学識経験を有する2名の方々に依頼し、点検・評価の内容についての意見を伺った。

氏 名	役 職 等
松 崎 正 美	保護司 元公民館職員
熊 谷 智 子	人権擁護委員 元公民館職員 社会教育主事

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II 大郷町教育振興基本計画（抜粋）

### 1 大郷町教育基本理念

まちづくりは人づくり、人づくりは教育

～心豊かでたくましく生きる人間の育成を目指して～

大郷町のまちづくりの基本理念は、『「自力」一人ひとりが考え、行動し、未来を創るまちづくり』と定められています。

そのためには、町民と町の協働によって、大郷町の良さを共有しながら一人ひとりが創意工夫してまちづくりを考え、一人ひとりがまちづくりのために積極的に行動し、一人ひとりが魅力ある未来のまちづくりを創造していく必要があります。

その礎は、「まちづくりは人づくり、人づくりは教育」であり、故郷の心を誇りにして、新しい時代を拓く『心豊かでたくましく生きる人間の育成』を一層充実させるため、学校や家庭、地域社会が協働しながら教育を推進します。

### 2 大郷町教育基本方針

教育のさらなる充実で心豊かなまちづくりを目指して、次の5つを本計画の基本方針として取り組んでいきます。

基本方針1 学ぶ力と自立する力の育成

基本方針2 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

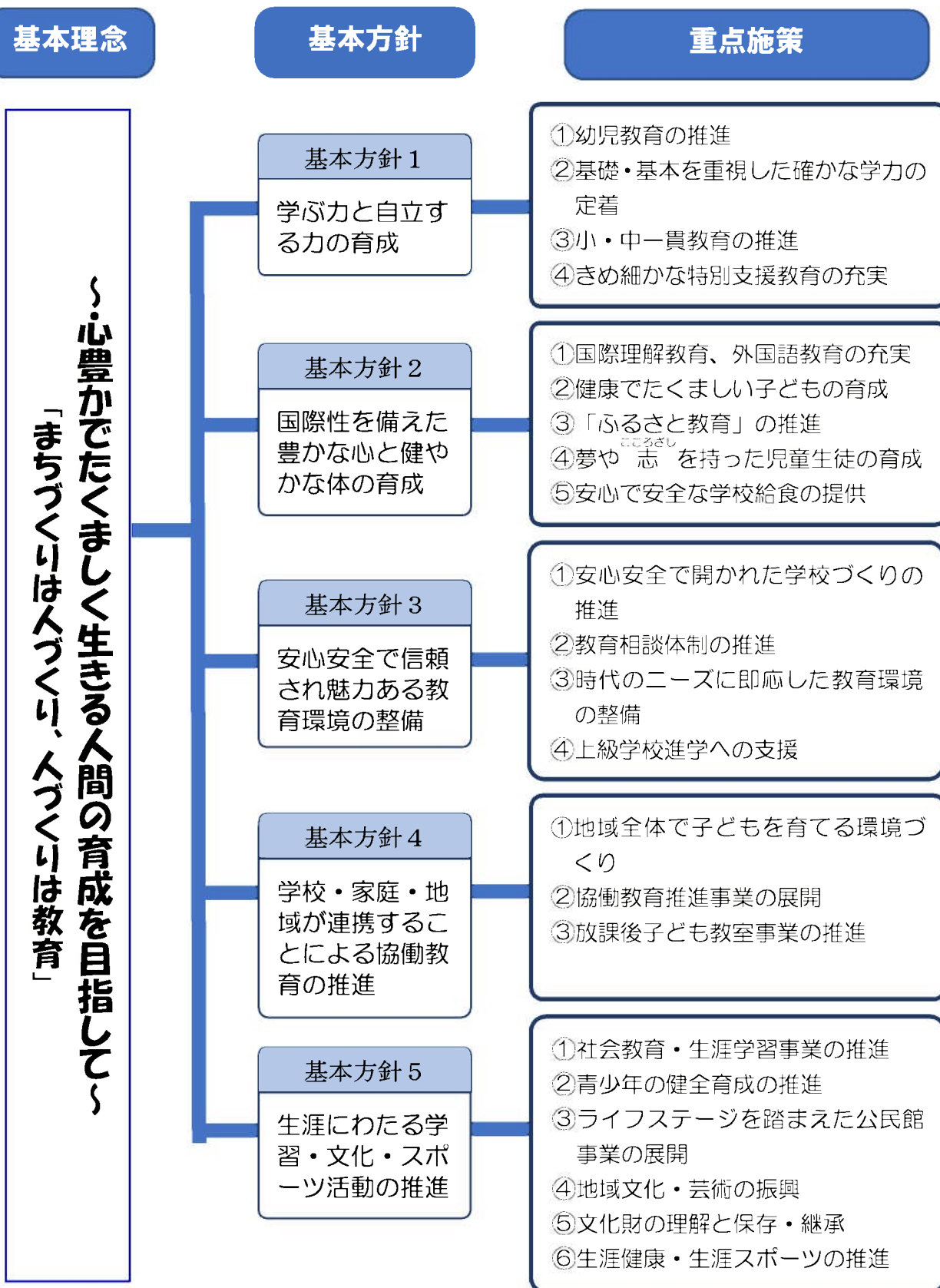
基本方針3 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備

基本方針4 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

基本方針5 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

### 3 計画体系図

本計画では、「教育基本理念」と5つの「基本方針」のもと、その実現に向けて、次の22項目の「重点施策」を実施していきます。





### Ⅲ 令和4年度大郷町教育基本方針

教育振興基本計画で謳っている「大郷町教育基本方針」を「令和4年度教育基本方針」とする。

そして、この令和4年度教育基本方針に基づき、当該年度の重点施策を、以下のとおり定め、教育に関する諸施策を推進する。

教育のさらなる充実で心豊かなまちづくりを目指し、

- 学ぶ力と自立する力の育成
- 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成
- 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備
- 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進
- 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

を重点に、学校・家庭・地域協働のもと、生涯にわたる教育の充実に努める。

## 令和4年度大郷町教育重点施策

- I 学ぶ力と自立する力の育成
  - 1 幼児教育の推進
    - (1) 認定こども園と小学校との連携強化
  - 2 基礎・基本を重視した確かな学力の定着
    - (1) 個の能力に応じた指導の工夫と実践
    - (2) 時代の要請に応じた教育の推進
    - (3) 分かる授業づくりの推進
  - 3 小・中一貫教育の推進
    - (1) 小・中学校の円滑な接続を図る教育課程の編成
    - (2) 子ども・教員の校種間交流の推進
    - (3) 子どもの居場所の確かな保証
  - 4 きめ細かな特別支援教育の充実
    - (1) 個々の指導計画の立案と実践
    - (2) 教員補助者の適正配置
    - (3) 関係機関との連携強化



## Ⅱ 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

### 1 国際理解教育，外国語教育の充実

- (1) 国際理解教育，外国語教育の充実強化
- (2) 外国語指導助手（ALT）の活用

### 2 健康でたくましい子どもの育成

- (1) 指導計画に基づく体力づくりの推進
- (2) 食育指導の充実
- (3) 環境教育の充実

### 3 「ふるさと教育」の推進

- (1) 社会科副読本「私たちの大郷町」の活用

### 4 夢や志を持った児童生徒の育成

- (1) 志教育の推進と支援体制の整備
- (2) 家庭の教育力の向上

### 5 安心で安全な学校給食の提供

- (1) 食育の推進と関係機関との連携
- (2) 学校給食施設・設備の整備・充実

## Ⅲ 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備

### 1 安心安全で開かれた学校づくりの推進

- (1) 学校評議員の活用及び学校評価等の公開による開かれた学校づくりの推進

### 2 教育相談体制の推進

- (1) 校内指導体制の充実
- (2) 心のケアハウス事業の推進
- (3) 関係機関との連携強化

### 3 時代のニーズに即応した教育環境の整備

- (1) ICT教育の環境整備と充実
- (2) 家庭・地域と連携し，安全なスクールバス運行

### 4 上級学校進学に係る支援

- (1) 奨学資金貸与制度を奨励し，上級学校へ進学する機会の拡充
- (2) 住民バス運行等による公共交通機関への接続確保

## Ⅳ 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

### 1 地域全体で子どもを育てる環境づくり

- (1) ボランティアによる登下校指導
- (2) 関係団体との連携強化
- (3) 子どもたちの体験活動の充実

## 2 協働教育事業の推進

- (1) 魅力ある教育活動を推進する人材の確保・活用

## 3 放課後子ども教室事業の推進

- (1) 学習活動の推進
- (2) 体験学習の充実

# V 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

## 1 社会教育・生涯学習事業の推進

- (1) 生涯学習情報の発信，学習機会の提供及び支援
- (2) 社会教育団体の支援及び社会教育指導者の育成
- (3) 社会教育施設の改修・整備

## 2 青少年の健全育成の推進

- (1) 青少年健全育成の啓発活動への支援・協力
- (2) ふれあい交流事業等，各種体験活動への参加促進

## 3 ライフステージを踏まえた公民館事業の展開

- (1) 各種団体，地域コミュニティ組織活動への協力
- (2) 地域に根差した分館活動の活性化支援

## 4 地域文化・芸術の振興

- (1) 文化・芸術を身近に触れる機会の提供
- (2) 文化団体の育成と連携強化

## 5 文化財への理解と保存・継承

- (1) 文化財の保存・管理体制の充実
- (2) 郷土芸能の伝承と活動支援

## 6 生涯健康・生涯スポーツの推進

- (1) 生涯スポーツ推進体制の整備
- (2) 各種スポーツ大会・教室の実施
- (3) スポーツ施設の改修・整備

## IV 教育委員会の活動状況

教育委員会では、毎年度、教育基本方針と重点施策を定め、これを基に各種の事業を展開している。

教育委員会においては、毎月1回の教育委員会定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催した。

さらに、会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うために、式典等の行事への参加はもとより、学校訪問や視察、定例会終了後に意見交換を積極的に行うなど、活発な活動を通じて教育行政の推進に努めてきた。ただし、教育委員を対象とする各種研修等は、新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度も全て中止になった。

令和4年度における教育委員会の主な活動状況については、次のとおりである。

### 1 教育委員（令和4年度在籍者）

職名	氏名	任期
教育長	鳥海義弘	令和2年10月23日～令和8年10月22日
教育長職務代理者	武藤光広	令和4年10月1日～令和8年9月30日
委員	高橋幸也	令和3年12月1日～令和7年11月30日
委員	高橋賢之	令和2年6月25日～令和6年6月24日
委員	及川明美	令和元年10月1日～令和9年9月30日

### 2 教育委員会活動

項目	回数	活動内容
教育委員会会議の開催	14回	定例会及び臨時会の開催 定例会12回、臨時会2回
教育委員会会議の傍聴者の状況	0人	傍聴者なし
議事録の公開、広報・公聴活動の状況	0件	会議録の開示請求0件
研修会等への参加状況	0回	黒川郡町村教育委員会研修会 中止 管内市町村教育委員会研修会 中止 縣市町村教育委員・教育長研修会 中止 東北六縣市町村教育委員・教育長研修会等 中止
学校等所管施設訪問	1回	小中学校、給食センター、ケアハウス

## 会議の開催状況

区 分	期 日	主 な 付 議 事 件
定例会	令和4年 4月 22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度一般会計補正予算（第15号）教育委員会関係予算</li> <li>・ 令和4年度一般会計補正予算（第1号）教育委員会関係予算</li> <li>・ 人事案件（教員補助者、職員人事、文化財保護審議会委員）</li> <li>・ 令和4年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定</li> </ul>
定例会	令和4年 5月 20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事案件（いじめ問題対策専門委員会委員、学校給食センター運営委員、教育支援審議会委員、特別支援教育連携協議会委員、）</li> <li>・ 令和4年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定</li> </ul>
定例会	令和4年 6月 22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度一般会計補正予算（第2号）教育委員会関係予算</li> <li>・ 人事案件（職員人事、ICT教育推進委員会委員、社会教育委員、協働教育推進運営協議会委員、スポーツ推進審議会委員）</li> <li>・ 令和4年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定</li> </ul>
臨時会	令和4年 7月 6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度使用教科用図書採択計画書</li> <li>・ 人事案件（教員補助者）</li> </ul>
定例会	令和4年 7月 21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史民俗資料館設立準備委員会設置要綱の制定</li> <li>・ 令和5年度使用教科用図書採択</li> <li>・ 外国語指導助手の任用</li> </ul>
定例会	令和4年 8月 25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定</li> </ul>
定例会	令和4年 9月 22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事案件（歴史民俗資料館設立準備委員会委員）</li> <li>・ 令和4年度一般会計補正予算（第6号）教育委員会関係予算</li> </ul>
臨時会	令和4年 10月 18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の事件等報告</li> </ul>
定例会	令和4年 10月 25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務事業点検・評価報告</li> </ul>
定例会	令和4年 11月 28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事案件（社会教育主事）</li> </ul>

定例会	令和4年12月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度一般会計補正予算（第9号）教育委員会関係予算</li> </ul>
定例会	令和5年1月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会事務事業点検・評価報告</li> </ul>
定例会	令和5年2月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度教育基本方針及び教育重点施策</li> <li>・県費負担教職員の任免等の内申</li> </ul>
定例会	令和5年3月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度一般会計補正予算（第11、12号）教育委員会関係予算</li> <li>・令和5年度一般会計予算教育委員会関係予算</li> <li>・教育委員会行政組織規則の一部改正</li> <li>・学校の管理に関する規則の一部改正</li> <li>・人事関係（指導主事、ケアハウススーパーバイザー・コーディネーター、教員補助者、スクールソーシャルワーカー、学校評議員、学校施設管理員）</li> <li>・学校教育法施工細則の一部改正</li> <li>・招致外国青年任用規則の一部改正</li> <li>・学校給食センターの管理運営に関する規則の改正</li> <li>・規則で定める申請書類等の押印の特例に関する規則の改正</li> <li>・訓令で定める申請書類等の押印の特例に関する規則の改正</li> <li>・告示で定める申請書類等の押印の特例に関する規則の改正</li> <li>・日本スポーツ振興センターの共済掛金に関する要綱の制定</li> <li>・令和5年度準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定</li> <li>・会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則の一部改正</li> <li>・歴史民俗資料館設立準備委員会報告</li> </ul>

## V 教育重点施策等の点検・評価

### 1 学ぶ力と自立する力の育成

#### 重点施策1. 幼児教育の推進

##### 施策1 認定こども園と小学校との連携強化（大郷小学校）

###### 令和4年度実施状況

- ・学校だよりを届け、小学校の行事計画や児童の様子をお知らせした。
- ・小学校教員3名が、こども園での異校種交流研修を行った。園児の様子を見たり、こども園の教員から情報を得たりするなど、情報共有に努めた。

###### 成果と課題、今後の取組

- ・5歳児担当者と新任教員が直接引継ぎを行うことで、当該児童の配慮事項の把握や、小学校入学後の留意事項等について見通しを持って準備することができた。
- ・異校種交流研修の際に見たこども園での園児の様子や、知り得た情報について学校全体で共有し、スタートカリキュラムに反映させたい。
- ・今後は、こども園と小学校の教職員間で、小学校入学が義務教育のスタートとして大事な時期であるという共通認識を持って保育及び指導に当たることができるようこども園と小学校の合同研修会の設定などを検討していきたい。

##### 施策1 認定こども園と小学校との連携強化（学校教育課）

###### 令和4年度実施状況

- ・毎月、こども園長・小・中学校校長会議を開催し、小学校だけでなく、中学校及び子どもの心のケアハウス「とらいあぐる」等に関してもこども園と情報交換を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策、幼児及び児童生徒の生活状況等について、こども園及び町民課と情報交換した。

###### 成果と課題、今後の取組

- ・今後も毎月のこども園長・小・中学校校長会議など、定期的な情報交換を通じて連携を深めていく。

## 重点施策2. 基礎・基本を重視した確かな学力の定着

### 施策1 個の能力に応じた指導の工夫と実践（大郷小学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・児童に読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、学習の基盤を構築するために、見通しと学びがいを持てる授業づくりに取り組んだ。
- ・学習事項の習熟のためにタブレットドリルを活用し、個々の力量に合った問題練習に取り組ませ、「できた」「分かった」という実感が持てるような指導を行った。
- ・きらぼし（通級学級）で個別の指導計画に基づく指導を行った。通級教室での学習の様子を保護者及び学級担任と共有し、児童の頑張りや成長を認め励ます声掛けを行うことで、児童の自己肯定感や意欲の向上に努めた。
- ・外国籍の児童が安心して学習に取り組むことができるよう、日本語指導教員が取り出しや入り込みなど形態を工夫して個別指導を行った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・タブレット端末を使用し、児童が自己選択・自己調整しながら問題に取り組むことで既習事項の定着に一定の成果が見られた。
- ・通級教室では、児童一人ひとりの良さを認め励ます声掛けを意図的に行うことで、児童が自己肯定感を高め頑張ろうという意欲を持って活動する姿が見られた。
- ・外国籍の児童が、友達と一緒に楽しく学習に取り組む様子が見られた。日本語の理解の程度には個人差が見られるので、適切な実態把握と個に応じた指導の充実が必要である。



## 施策 1 個の能力に応じた指導の工夫と実践（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 3年生の国語において、授業の導入で、漢字や言語事項の基礎的内容を復習するプリントを用いて反復学習を継続して行った。
- ・ 教室前の廊下に、理科と社会の問題プリントを多数準備し、休み時間や昼休みに取り組むよう声掛けし、生徒が基礎基本の習得ができるよう環境を整備した。
- ・ 外国籍の生徒に対し、日本語や日常生活に必要な知識技能の習得のため、取り出して個別指導を行った。



### 成果と課題、今後の取組

- ・ 授業の導入で反復学習をすることにより、漢字の読み書き等の基礎力が身に付いた生徒が多かった。
- ・ 問題プリントに自主的に取り組む生徒がしだいに増えていき、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢が身に付いてきた。
- ・ 外国籍の生徒が複数おり、一人ひとりの日本語の習得状況に差があるため、個別の指導が必要であるが、指導する教員の数に限りがあるため、日本語指導の非常勤講師等を増員する必要がある。

## 施策 2 時代の要請に応じた教育の推進（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 校内研究で、「主体的に学習に取り組む児童の育成」を主題とし、協働による授業づくりを通して授業改善に取り組んだ。
- ・ G I G Aスクール構想の推進に向けて、導入されたタブレット端末の活用を進めた。
- ・ 大郷町教育研究会研修会では、I C Tモラル研修会を実施し、指導法の工夫と改善に努めた。



### 成果と課題、今後の取組

- ・ 校内研究では、学年部での協働による授業づくりに努め、事前授業を実施し課題を明確にするなどの取組を行った。
- ・ タブレット端末や電子黒板の活用について、教員の研修を日々行った。活用を進める上での問題点や課題についても I C T推進リーダーを中心に解決を図った。



- ・ Google workspace やロイロノートなどのアプリを、授業だけでなく日常的に活用することで、児童だけでなく教員の I C Tスキルも向上した。

## 施策2 時代の要請に応じた教育の推進（大郷中学校）

### 令和4年度実施状況

- ・グーグルフォーム等を活用し、学習や学校生活についてのアンケートを行って生徒の実態を把握して、授業改善や生徒指導に即時活用した。
- ・授業の中で、生徒用タブレットを活用し、生徒一人ひとりの考えを集約して全体で共有する場を意図的に設定し、GIGAスクール構想の推進に努めた。

### 成果と課題、今後の取組

- ・グーグルフォーム等の活用によりアンケート集計を効率化することができ、教員の働き方改革につながるとともに、生徒一人ひとりの実態をこまめに把握できた。
- ・ロイロノートを活用することにより、生徒一人ひとりの考えを把握しやすくなった。また、タブレットを使うことにより、生徒が自分の考えをまとめることへの抵抗感を軽減できた。



## 施策3 分かる授業づくりの推進（大郷小学校）

### 令和4年度実施状況

- ・協働による授業づくりに取組み、学年部で共通理解を図りながら授業実践を行った。校内研究の取組を中心として、主に国語の学力向上を目指した授業改善に取り組んだ。
- ・学習が遅れがちな児童に対して、放課後の時間や個別学習の時間（もくもくタイム）を活用し、基礎・基本の定着を図った。
- ・児童が自分の考えを発表する際に、電子黒板を活用することで考えの可視化を図った。また、タブレット端末を使い、個々の実態に応じた課題に取り組ませた。

### 成果と課題、今後の取組

- ・校内研究の取組により、職員の授業改善に対する意欲を高めることができた。また、「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」により、宮城県総合教育センター指導主事から授業づくり、指導案づくりについて具体的な指導助言を受けたことが更なる授業改善につながった。
- ・個別指導の時間を確保することで、基礎・基本の定着を図ることができた。時間の確保が課題ではあるが、学習内容の定着を図るための個別指導を継続していきたい。



### 施策3 分かる授業づくりの推進（大郷中学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・「主体的に学習に取り組む児童・生徒の育成」を研究主題とし、各教科において、生徒の主体的な学びを促す授業づくりに努めた。具体的方法として、目標を板書して生徒に見通しを持たせることと、生徒の思考を広げる学び合いを指導過程に位置付けた授業展開を実践した。
- ・「学力向上に向けた5つの提言」について、職員会議の中で共通理解を図りながら、各教科において、それを踏まえた授業実践に努めた。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・毎時間の目標の板書について、おおむね全教科で共通して行うことができた。次年度は、目標に対しての振り返りの場の工夫を図っていくことが必要である。
- ・アンケート調査では、多くの教科で「分かった」「おおむね分かった」と回答する生徒が多いが、引き続き「5つの提言」を意識しながら、「分かった」と回答する生徒の割合が多くなるように、学びがいのある授業づくりに努めていきたい。

### 施策3 分かる授業づくりの推進（学校教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・新規不登校者数の抑制を目的とする「行きたくなる学校づくり」事業の一環として、日々の授業づくりに着目し、中学生を対象に7月と12月の2回、授業での頑張りや授業の理解についての調査、先生の授業の良いところや改善してほしいところについての事由記述により授業評価をした。
- ・宮城県の「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」の指定を受け、小・中学校の教員を対象に、合同研修会、各校での授業研究を実施した。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・生徒の授業評価結果を取りまとめ、校長が教員に面接を通じてフィードバックすることで、中学校での授業改善に活用してもらった。みやぎ「行きたくなる学校づくり」推進事業の指定が令和4年度までの2年間であるが、引き続き授業評価を継続したい。
- ・学校サポート事業では、宮城県総合教育センターからの授業改善に向けた指導・助言を得られた。また、小・中学校の教員が合同で意欲的に研修をした。来年度以降も学力向上に向けて事業の継続を検討する。

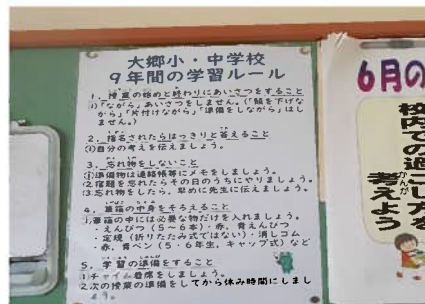


### 重点施策3. 小・中一貫教育の推進

#### 施策1 小・中学校の円滑な接続を図る教育課程の編成（大郷小学校）

##### 令和4年度実施状況

- ・小・中学校の研究主任を中心として作成した授業ルール「大郷小・中学校9年間の学習ルール」を教室に掲示し活用することで、小中9年間を見通した体系的な指導に努めた。
- ・学校間で各種行事に関する情報共有を積極的に行うよう努め、児童が安心して中学校進学を迎えられるよう配慮した。



##### 成果と課題、今後の取組

- ・小・中学校の教員間での引継ぎ会では、配慮の必要な児童についての情報共有を行うことで、安心して中学校に送り出すことができた。
- ・小・中学校の円滑な接続のために、児童の部活動見学や、中学校教員の入り込み授業の実施などについて、中学校と協議していきたい。

#### 施策1 小・中学校の円滑な接続を図る教育課程の編成（大郷中学校）

##### 令和4年度実施状況

- ・一日入学を実施し、入学前の児童に中学校生活の見通しを持たせ、小中の円滑な接続を図った。
- ・「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」に取り組み、小中相互に授業参観と研修会を実施した。
- ・小中の研究主任を中心として、小中9年間の体系的な指導ができるよう、授業のルールづくりと家庭学習の手引の改善を行った。



##### 成果と課題、今後の取組

- ・一日入学で、新入生に直接説明できたことにより、小学校とは違う中学校生活の内容を理解させることにつながった。
- ・教職員間の引継ぎ会の実施により、配慮の必要な生徒について詳細に把握でき、新年度からの指導の見通しを持つことができた。
- ・小中共通の授業のルールと家庭学習の手引を改善したことにより実態に即したものにすることができた。

## 施策2 子ども・教員の校種間交流の推進（大郷小学校）

### 令和4年度実施状況

- ・11月にはこども園の園児が来校し、授業や特別教室の見学を行った。また、2月には1年生との交流を行った。異年齢交流のよい機会となった。
- ・教員の異校種交流研修では、小学校から3名の職員がこども園で研修し、こども園からも1名の教員が小学校で研修を行った。



### 成果と課題、今後の取組

- ・授業や特別教室の見学では、園児が興味を持って見学する姿が見られ、小学校入学を楽しみにするきっかけとなる活動になった。
- ・こども園授業体験では、1年生が先輩として張り切って活動する姿が見られた。園児も楽しく活動する様子が見られた。
- ・こども園と小学校の職員が、同じ活動に取り組む子どもたちの様子を見ることで児童理解を深めることができた。さらに、次年度入学児童についての情報交換も行うことができた。



## 施策2 子ども・教員の校種間交流の推進（大郷中学校）

### 令和4年度実施状況

- ・異校種交流研修において、中学校から小学校に2名、こども園に2名の教職員の交流を実施できた。小学校からは1名の教職員の交流があった。
- ・小学校6年生へ理科の出前授業を実施することができた。
- ・10月に、小学6年生を対象に、部活動見学会を実施することができた。

### 成果と課題、今後の取組

- ・異校種交流研修で、小学校やこども園に行った教員から感想等を聞いたり、学んできたことを教職員全体で共有する機会を校内研修等に取り入れていく必要がある。
- ・コロナ禍の中で実施できなかった部活動見学会を実施でき、小学6年生に直接部活動の様子を見せることができ、中学校生活に見通しをもたせることができた。

### 施策3 子どもの居場所の確かな保証（大郷小学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・異年齢交流の機会を多く設定した。入学間もない1年生の世話を6年生が行ったり、6年生をリーダーとしてたてわり活動の充実を図ったりした。児童それぞれの発達段階に応じて活躍できる場があることで、居場所づくりにつながった。



#### 成果と課題、今後の取組

- ・1年生の世話を6年生が行うことは大郷小学校の伝統であり、6年生が最上級生としての自覚を持ち、誰かの役に立つことを価値あることとして自己有用感を高めることにつながった。また、5年生がその姿に憧れることで、最上級生への意欲を高める様子も見られた。
- ・たてわり活動を通して、上級生のリーダーシップと下級生のフォロワーシップの育成につながった。



### 施策3 子どもの居場所の確かな保証（大郷中学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・学校環境適応感尺度「アセス」を実施し、生徒一人ひとりの学校への適応の様子について実態把握を行った。
- ・生徒の抱える問題や悩みについて早期の把握と対応をするため、「振り返りカード」を生徒に毎日記入させ、担任が確認した。
- ・毎月「生活点検アンケート」を実施し、いじめや生徒一人ひとりが抱えている問題の早期発見、早期対応に努めた。
- ・ケアハウスと連携し、不登校生徒の新たな居場所づくりに努めた。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・学校環境適応感尺度「アセス」の結果や「振り返りカード」の生徒の記述内容から、問題行動の把握や、生徒の抱える悩みの早期発見と指導ができた。
- ・「生活点検アンケート」の結果については、担任だけでなく学年や職員全体で情報を共有することにより、多様な視点から、対応や指導に活かすことができた。
- ・3年生の不登校生徒がケアハウスに通所することにより、進路目標をもち意欲的に学習に向かうことができた。



### 施策3 子どもの居場所の確かな保証（学校教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・新規不登校者数の抑制を目的とする「行きたくなる学校づくり」の一環として、小・中学校の教員を対象に指導主事による、行きたくなる学校づくり研修会を2回実施した。
- ・行きたくなる学校づくりの取り組みについて、進捗状況等を共通理解するために、担当教員等が出席し、行きたくなる学校づくり小・中連携会議を年3回実施した。
- ・小学5・6年生及び中学生を対象に「学校に来るのが楽しい」、「授業がよくわかる」、「今の自分が好き」、「クラスの人役に立っている」等の学校生活に関する意識調査を7月、12月、3月の年3回実施した。また、意識調査の結果を小・中学校で毎回振り返り、次回調査に向けた新たな目標を設定した。
- ・小・中学校の円滑な接続を図るため、小学6年生を対象に中学校に進学するにあたって抱く不安や悩みを軽減するアンケート調査を実施した。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・行きたくなる学校づくり研修会及び小・中連携会議を通して、本事業の児童生徒の居場所づくり、絆づくり、不登校の未然防止に向けた初期対応等について、小・中学校の全教員が学ぶことができた。
- ・行きたくなる学校づくり、小・中連携会議の中で、小・中学校が取り組んできた絆づくりの事例を絆づくり事例集としてまとめ、共有することができた。
- ・児童生徒の学校での適応感、授業理解、自己肯定感、自己有用感を調査する意識調査を継続し、今後も小・中学校と連携して児童生徒が学校に行きたくなるような絆づくり、居場所づくりに努める。



## 重点施策4. きめ細かな特別支援教育の充実

### 施策1 個々の指導計画の立案と実践（大郷小学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・特別支援学級の担任と教育補助者が連携し、児童一人ひとりの支援内容について共通理解を図るよう努めた。
- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成については、個々の児童の成長に合わせて、面談等の際に保護者に確認した上で、適宜加除修正を行った。
- ・より多くの経験を通して児童の成長を促すため、指導体制及び活動内容をより充実したものにするよう指導の工夫を図った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・担任と特別支援コーディネーターが連携し、児童の気になる様子についてケース会議を実施したり保護者との面談を行ったりすることで、きめ細やかな指導につなげることができた。
- ・児童の実態に合わせて、交流学习や個別学習等の指導形態の工夫に努めるとともに様々な体験活動を通して集団の中で生活する力、他者と関わる力などを高めることができた。

### 施策1 個々の指導計画の立案と実践（大郷中学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・特別支援学級の授業に関わる教職員を多くし、年度初めに、特別支援学級担当者会議を開き、生徒一人ひとりの支援内容について共通理解を図り、教科ごとの指導計画の立案と授業実践に活かせるようにした。
- ・生徒個々の実態に合わせた個別の支援計画と各教科の年間の指導計画を作成し、学習状況に応じて、計画の修正を図りながら指導に当たった。
- ・インクルーシブ教育の推進を図るため、生徒の実態に合わせて協力学級で学習する教科を設定し、交流学习を行った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・多くの教職員が特別支援学級の生徒に関わることにより、生徒の良さを多角的な視点から見つけることができた。
- ・教科の特性と生徒の実態に合わせて、交流学习や複式学習、個別学習を取り入れることで、生徒の実態に合わせた指導に努めるとともに、集団の中で生活する力や他者と関わる力なども高めることができた。
- ・個別の支援計画と指導計画を作成したことで、見通しを持って系統的な指導を行うことができた。今後、更に教科間の連携を図り、教科横断的な指導の充実を図っていく必要がある。

## 施策 2 教員補助者の適正配置（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 8名の教員補助者を配置していただき、低学年と特別支援学級できめ細やかな支援を行うことができた。特に、特別支援学級で休み時間の配慮を要する児童の見守りや、排泄の際の補助や付き添い等児童が安心して学校生活を送れる指導体制を作ることができた。

### 成果と課題、今後の取組

- ・ 教員補助者の見守りのおかげで、児童が安全に安心して学校生活を送ることができた。また、見守りから知り得た情報を教員に伝えることが、児童の生徒指導において効果を発した。
- ・ 可能な限り担任との情報交換の場を設けたが、十分とはいえなかった。限られた状況の中で担任の意図を汲み取り、機転を利かせて支援にあたる姿が見られた。
- ・ 今後は、教育補助者と担任が児童支援の情報を共有するための仕組みや、教育補助者の職務内容を互いに理解し教育効果を十分に発揮しながら共に働くことができるよう検討する必要がある。

## 施策 2 教員補助者の適正配置（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 年度当初、教員補助者を 3名配置していただき、3名の特別支援学級の生徒と通常学級に在籍している支援が必要な生徒の支援に当たってもらった。
- ・ 特別支援コーディネーターが毎週の支援計画を立て、補助者の適切な配置を行った。また、特別支援コーディネーターが中心になり、教科担当の教職員と教育補助者との連絡調整を行った。
- ・ 教員補助者には、毎日支援の記録を記入してもらい、特別支援コーディネーター、学年主任、管理職で点検し、生徒の授業での様子を把握できるようにした。

### 成果と課題、今後の取組

- ・ 補助者が、様々なことに気付き、適切に支援してくれるため、生徒のつまずきや作業の遅れの解消につながっている。
- ・ 毎日の支援記録により、生徒の様子や課題を把握することができ、個別の対応や授業改善に活かすことができている。
- ・ 年度途中より、教員補助者が 1名になり、3名の特別支援学級の生徒の支援が十分できていない状況があるため、少なくとも 2名の配置をお願いしたい。

## 施策2 教員補助者の適正配置（学校教育課）

### 令和4年度実施状況

- ・特別支援学級及び通常学級（小学校1・2年生及び中学校1年生、外国籍）で支援が必要な児童生徒に対する教員補助のため、小学校9名、中学校3名の教員補助者を会計年度任用職員として配置した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策と教員の負担軽減のため、本来の業務に加え、校内の消毒清掃活動にも従事してもらった。
- ・教員補助者の資質向上を図るため、特別支援教育のコツや配慮を要する子どもの具体的支援の在り方等について、年2回の研修会を実施した。

### 成果と課題、今後の取組

- ・教員補助者は、児童生徒の学習支援、生活支援に大きな役割を果たしている。特にコロナ禍では、よりきめ細かな支援が求められており、特別支援学級の児童生徒の推移等を見ながら、今後も適正に教員補助者を配置していく。
- ・教員補助者の働きやすい環境づくりと資質向上のため、令和5年度も意見交換や研修の場を提供する。

## 施策3 関係機関との連携強化（大郷小学校）

### 令和4年度実施状況

- ・特別支援学校のセンター的機能を活用し、地域コーディネーターに児童の様子を観察してもらい、担任への支援や保護者への教育相談対応への助言をいただいた。
- ・該当児童が医療機関を受診する際、学校での学習及び生活における様子を紙面で情報提供するなど、学校と家庭との共通理解を図った

### 成果と課題、今後の取組

- ・校内の特別支援教育コーディネーターを中心としてケース会議を行い、必要に応じて関係機関との連携を図ることができた。
- ・特別支援学校の地域コーディネーターから専門的な助言をいただき、配慮の必要な児童への支援に活かすことができた。
- ・今後は、保護者に対し児童の様子を積極的に伝えることで、適切な時期に関係機関との連携を図ることができるよう、校内での研修や共通理解などが必要である。

### 施策3 関係機関との連携強化（大郷中学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・特別支援教育コーディネーターと担任が協力し、医療機関等と連携を図った。
- ・進路指導において、生徒の希望に合わせて支援学校、高等学園等との連携を図った。
- ・療育手帳の更新や医療機関への受診など、保護者と連絡を密に取り合いながら、家庭と関係機関との関わりを学校側も把握できるよう努めた。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・保護者との連絡をこまめにとることで、関係機関との連携も適切にとることができている。就学支援に関わる情報の共有などは、教育委員会とも密にとることができている。学校見学や教育相談を積極的に受けさせることができた。
- ・今後、生徒の個別の支援や学習指導等においても、県の特別支援教育課や特別支援学校との連携を強化し、生徒の指導、支援に当たっていきたい。

### 施策3 関係機関との連携強化（学校教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・大郷町教育支援審議会（1回開催）、大郷町特別支援教育連携協議会（2回開催）を通して、学校医、小・中学校、こども園、町民課と連携し、特別な教育的支援を必要とする乳幼児、児童生徒に関する情報交換、修学に関する調査及び審議を行った。令和4年度は、より専門的な立場から助言等をもらうため、利府支援学校の地域支援教育コーディネーターを委員として前年度より引き続き委嘱した。
- ・新入学予定の児童の保護者の相談に応じ、小学校と連携して授業見学等を行った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・大郷町特別支援教育連携協議会では、ケース会議として小・中学校が1回ずつ事例を発表し、支援上で抱える問題や支援の成果等を情報交換できた。
- ・小・中学校毎のケース会議は、児童生徒への支援、連携強化、情報交換の場として効果的であるため、令和5年度以降も継続する。



## 2 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

### 重点施策1. 国際理解教育、外国語教育の充実

#### 施策1 国際理解教育、外国語教育の充実強化（大郷小学校）

##### 令和4年度実施状況

- ・外国語専科教員がALTと連携した授業を行うことで、ネイティブな発音によるテンポのよい活動を通してコミュニケーション能力の素地や基礎を養うことができるよう努めた。
- ・校内に英単語の掲示を行い、普段から外国語にふれる工夫を行った。

##### 成果と課題、今後の取組

- ・外国語専科教員やALTと積極的に関わろうとする児童が増えた。
- ・外国籍の児童との交流を通して、他の国の生活習慣や文化について知り、互いの国を尊重する気持ちを持つ機会となった。普段から外国籍の児童と積極的に関わろうとする児童が多く、コミュニケーション能力の育成につながっている。

#### 施策1 国際理解教育、外国語教育の充実強化（大郷中学校）

##### 令和4年度実施状況

- ・国際理解教育の推進を図るため、英語科の授業に加えて、社会、音楽、美術、道徳においても、様々な国の生活、文化、歴史等について学習する機会を設定した。
- ・英語教育については、英語科の授業中、指示や発問を英語で行うようにし、英語に慣れ親しむ場面を多くした。
- ・令和元年度から外国籍の生徒が転入してきたことを受け、教員、生徒ともに宗教や文化、生活様式など、日本との違いを学ぶ機会が増え、国際理解が深まるよい機会となっている。

##### 成果と課題、今後の取組

- ・英語科の授業でできる限り英語で指示、発問することにより、英語を聞く話す能力を高めることにつながっている。
- ・外国籍の生徒との交流を通して、他の国の文化や日本との違いを知るとともに、日本の文化や社会のよさを改めて知るよい機会にもなっている。
- ・授業中のサポートや休み時間の交流などにおいて、外国籍の生徒に積極的に関わろうとする生徒が多く、言語の枠を超えたコミュニケーション能力の育成にもつながっている。

## 施策 2 外国語指導助手（ALT）の活用（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・外国語専科教員とALTが、本時のねらいや授業で行うアクティビティ等の打合せを十分に行い、児童が興味感心を持って授業に取り組むよう指導の工夫を行った。
- ・児童がALTと会話をする機会が増えるよう、授業の流れを工夫して指導に当たった。



### 成果と課題、今後の取組

- ・児童とALTとのやりとりの機会を多く設定することで、「相手に伝えることができた」という達成感を感じながら積極的に学習する姿が見られた。
- ・ALTが自国の紹介や感じたことなどを積極的に児童に伝えることで、児童は多様な見方・考え方に触れるとともに、外国の文化や生活に興味関心を持つ様子が見られた。



## 施策 2 外国語指導助手（ALT）の活用（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ALTが作成した、外国の生活や文化に関する廊下掲示を行ったり、映像教材を授業で見せたりすることにより、異文化理解の推進を図った。
- ・英語科では、教科担当者とALTが、授業で行うアクティビティ等の打合せを十分に行い、生徒の英語への興味感心を高める工夫を行った。
- ・英語暗唱・弁論大会の代表生徒の指導にも、ALTの協力を得ている。原稿のチェックや発表指導等を行い、生徒の英語力の向上に尽力してもらっている。

### 成果と課題、今後の取組

- ・授業以外の時間においても、ALTが生徒に積極的に声を掛け、コミュニケーションをとっているため、自ら進んでALTに話しかける生徒も多く、英語学習への抵抗感が軽減されている。
- ・授業の中で、ALTが生徒一人ひとりと会話する機会をさらに増やしていくことで、生徒の英語学習に対するモチベーションと英語力の向上につながると考える。

## 施策 2 外国語指導助手（ALT）の活用（学校教育課）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図るため、一般社団法人自治体国際化協会のJETプログラムを活用し、引き続き外国語指導助手1名を配置した。
- ・大郷中学校に週4日、大郷小学校に週1日（火曜日）勤務した。要請に応じてこども園にも派遣した。

### 成果と課題、今後の取組

- ・引き続き、小・中学校に外国語指導助手を配置する。

## 重点施策 2. 健康でたくましい子どもの育成

### 施策 1 指導計画に基づく体力づくりの推進（大郷小学校）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・外遊びを奨励した。担任や補助員も校庭に出て、一緒に遊ぶ時間を持つようにした。
- ・スポーツテストの結果を受け、体育の時間の2分間走や縄跳びで運動量を確保し、継続的な体力づくりを行った。
- ・児童の意欲を喚起するため、体育の縄跳びや持久走では学習カードを活用した。



#### 成果と課題、今後の取組

- ・外で遊ぶ児童が増えた。ドッジボールやサッカー、鬼ごっこなどをして楽しく遊ぶ姿が見られた。
- ・体育の授業で学習カードを活用することで、自分の目標を決め、技の習得や記録の更新をめざして運動に取り組む児童の姿が見られた。



## 施策 1 指導計画に基づく体力づくりの推進（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、保健体育科の授業では、全学年で、授業の始めに5分間走や補強運動など、基礎的な体力の向上を図る取組を継続的に行った。
- ・地区駅伝大会に向けて、夏休み中に部活動単位で駅伝練習に参加させ、体力と持久力の向上を図った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・保健体育科の授業で基礎的な体力の向上を図る取組を継続し、生徒自らが積極的に体力の向上に努めるよう授業の中で、体力づくりの必要性を指導していく。
- ・部活動の練習の中で、ウォーミングアップに基礎体力を付けるためのフットワーク等を取り入れるようにし、体力の向上を図っていく。
- ・徒歩や自転車で登下校する生徒もいるが、自家用車での送迎の生徒も多い。学校だより等で、徒歩や自転車での通学を推奨し、家庭での運動習慣を推奨したりし、日常生活の中での基礎体力の向上を啓蒙していく。

## 施策 2 食育指導の充実（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・給食時間に栄養教諭による食育指導を行った。各学級を巡回し、献立や栄養に関する話をする事で、児童の食に関する意識を高める工夫を図った。
- ・食育担当と栄養教諭が打合せを行い、学校の畑で育てた野菜を給食で提供する取組を行った。
- ・給食委員の児童が、お昼の校内放送の時間に給食の食材について伝えたり、残食を減らす呼び掛けを行ったりして、食に対する関心を高める取組を実施した。



### 成果と課題、今後の取組

- ・学校の畑で児童が育てた野菜を給食で提供してもらったことで、「植える⇒育てる⇒収穫する⇒食べる」のサイクルで体験学習をすることができた。
- ・栄養教諭による食育指導で、児童の食への関心を高めることができた。

## 施策 2 食育指導の充実（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・栄養教諭の学校訪問による給食指導を通して、各クラスごとに食育指導を行った。
- ・地域食材について、給食委員の生徒が校内放送で伝えたり、残食を減らす呼び掛けを行ったりして、食に対する関心を高める取組を実施した。
- ・コロナ禍のため、家庭科の授業で複数人で調理実習を行うことが難しかったため、3年生の保育の授業で、一人一つずつフルーツサンド作りをして自分で食べるなど工夫して食に関する授業を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・給食の残食の量が多いので、担任からの指導や給食委員会の活動での呼び掛けを通して、減らしていきたい。
- ・給食委員の生徒の呼び掛けを次年度も継続して行い、生徒の食に対する関心を高めていきたい。
- ・家庭科の授業では、感染予防に注意しながら工夫して食育指導を行っていく。

## 施策 3 環境教育の充実（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・教材園を使って様々な野菜を育て、栽培や収穫の活動を行った。花や野菜の生長過程を常時観察できる環境を整え、栽培管理を楽しく行えるよう配慮した。
- ・緑化委員会が水やりや植栽などの常時活動を行った。また、校内に季節の草花を飾り、環境整備に努めた。



### 成果と課題、今後の取組

- ・今年度も4月の学校スタートに間に合うように、ボランティアの皆さんには、教材園を耕して堆肥「郷の有機」を入れる作業をしていただいた。毎年、児童のために協力していただいている。
- ・農作物の世話を常に行うことができる環境が整っており、児童の勤労生産への意欲を高めることができた。休み時間に進んで草取りをする姿も見られた。



### 施策3 環境教育の充実（大郷中学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・1学年で、冬から春にかけて咲くようにプランターに花苗を植える活動を行い、校地内の環境整備に取り組んだ。
- ・理科室前に、植物やメダカ等の動物を展示した「ミニビオトープ」の環境を作り、校舎内で環境について学べる環境づくりを行った。
- ・特別支援学級では、作業の時間に畑作りに取り組み、環境を守っていくことの大切さを体験を通して学べるようにした。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・1年生だけでなく、年に数回花苗を植える活動を各学年で行い、校内の環境整備活動の推進を図るとともに、環境保護に対する啓蒙活動を行っていく。
- ・理科室前の「ミニビオトープ」に興味をもって見学する生徒が増え、生物に対する関心が高まった。
- ・特別支援学級の畑作りでは、夏野菜の栽培を行い、収穫を通して、生徒が自然環境の大切さに気付くことができた。



### 重点施策3. 「ふるさと教育」の推進

#### 施策1 社会科副読本「私たちの大郷町」の活用（大郷小学校）

#### 令和4年度実施状況

3年生

- ・社会科「町のようす」の学習において、大郷町の地形、地区、交通などについて確認するために、資料や写真、説明を活用した。

4年生

- ・総合的な学習の時間「にわたりのいる町 大郷」「仙台牛の郷 大郷」の学習において、大郷町で飼育されている鶏や肉牛について学習する際に使用した。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・自分たちが住む大郷町について、豊富な資料と詳細な説明があり、社会科だけでなく総合的な学習の時間にも有効に活用することができた。
- ・4年生では、養鶏や和牛の飼育について学ぶ出前教室の事前指導に活用することで、児童の興味関心を高めるのに役立った。



## 施策 1 社会科副読本「私たちの大郷町」の活用（学校教育課）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・小学 3 年生及び 4 年生が自分たちの住む身近な地域を学ぶ教材として、教育委員会で印刷製本した社会科副読本を 3 年生に配布した。

### 成果と課題、今後の取組

- ・社会科副読本は、5 年に 1 度改定しており、現在は令和元年度に印刷製本したものを配付している。次回の改訂は、令和 6 年度を予定している。

## 重点施策 4. 夢や志を持った児童生徒の育成

### 施策 1 志教育の推進と支援体制の整備（大郷小学校）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・志教育の 3 つの視点『かかわる』『もとめる』『はたす』で整理した重点指導事項を設定し、家族や友達等身近な人々と接することでの学びや、目標をもって学習や体験活動に取り組むことでの学び、家庭での手伝いや学級の係活動・清掃活動を通した学びを児童が確実に継続できるように、教育課程編製の工夫を行った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・田植えや稲刈り、養鶏や和牛の飼育などに関わる地域の方に出前教室を依頼し、児童が仕事における苦労や工夫について直接話をうかがうことができた。仕事に誇りや喜びを持って取り組むことのすばらしさを知ることができた。また地域の良さにあらためて気付く機会となった。





## 施策 1 志教育の推進と支援体制の整備（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 1 学年の仙台自主研修、2 学年の職業人講話、3 学年の進路学習などを通して、系統的にキャリア教育を進めた。
- ・ 「キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自らを振り返り、将来への目標が持てるよう働き掛けた。
- ・ 志教育の 3 つの視点を各教科の内容に応じて位置付け、横断的・総合的に学習を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・ 「キャリア・パスポート」には、生徒の今後の夢や目標、それに向けての努力事項を書かせ、保護者と担任が励ましのコメントを書くことで、生徒の意欲を高めることができた。また、卒業生については、進学先の高校に「キャリア・パスポート」を引き継ぐことにより、系統的な志教育の推進に努めた。
- ・ コロナ禍のため、例年 2 学年で行っていた職場体験学習の代わりに、職業人講話を行い、職業観について自分の考えをもたせたり、将来の進路について考えさせることができた。

## 施策 2 家庭の教育力の向上（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 学校だよりや P T A 懇談会資料等には、必要に応じて児童の学習や生活に関する啓発資料を掲載し、保護者の教育に関する意識を高められるように努めた。
- ・ 夏休みには全家庭対象で教育相談を行い、児童の学習や学校生活の状況を伝え、家庭の協力をお願いした。
- ・ 長期休み中に児童の主体的な学びを促すように、発達段階に応じて長期休みならではの課題に取り組みせるよう家庭に情報発信した。

### 成果と課題、今後の取組

- ・ 様々な形で、児童の学習の取組や結果を保護者に伝えることで、保護者の学習に対する関心を高めることにつながった。
- ・ 発達段階に応じて適切な量の宿題を出していることで、児童の取組の状況はよい。家庭も協力的である。今後もお便り等で家庭学習の大切さを伝え、家庭学習の習慣の定着を図る。

## 施策2 家庭の教育力の向上（大郷中学校）

### 令和4年度実施状況

- ・学年だより、進路だより、PTA懇談会資料等で、家庭学習の取組方や進路情報を伝えることにより、保護者の学習や進路に対する啓蒙活動を行った。
- ・全学年で、11月に教育相談を行い、保護者と直接話す機会を設け、生徒の学習や学校生活の状況を伝え、家庭の協力をお願いした。
- ・定期考査の際に、生徒に学習の記録を毎日書かせ、保護者からチェックをもらうことを繰り返し、生徒の家庭学習の取組状況を学校と保護者で共有した。

### 成果と課題、今後の取組

- ・様々な形で、生徒の学習の取組や結果を保護者に伝えることで、保護者の学習や進路に対する関心を高めることにつながっている。
- ・11月の教育相談を全学年で全員を対象に行うことに変更したため、協力をお願いしたい家庭と直接話す機会を持って、生徒の課題の解決につなげることができた。
- ・家庭学習時間が少ない生徒が多いので、引き続き粘り強く働き掛けを行っていきたい。

## 施策2 家庭の教育力の向上（社会教育課）

### 令和4年度実施状況

- ・家庭教育学級事業について、子育て中の保護者の学びと交流の場の提供が、新型コロナウイルス感染症対策による活動制限により中止となった。

### 成果と課題、今後の取組

- ・事業の在り方について、親子で参加しやすいような事業の企画や、少人数やオンライン等での開催方法を検討していく。
- ・他団体や他課との合同開催等についても視野に入れて検討が必要である。

## 重点施策5. 安心で安全な学校給食の提供

### 施策1 食育の推進と関係機関との連携（学校給食センター）

#### 令和4年度実施状況

- ・1月の給食週間は、「四国4県と宮城県の料理」の献立を提供した。「高知県」「徳島県」「愛媛県」「香川県」「宮城県」と5日間提供し、毎日校内放送でPRした。
- ・学校における食物アレルギー事故防止の徹底を図るため、令和2年12月に策定した大郷町学校教育食物アレルギー対応マニュアルに基づき、今年度もアレルギー対応が必要な児童生徒の保護者に、学校生活管理指導表（診断書付）の提出を求め、アレルギー対応を行った。
- ・栄養教諭が小・中学校の全クラスを訪問し、朝食の大切さや地場農産物の利用についてなど食育を行った。
- ・栄養教諭が大郷町食育推進会議に出席し、食育に関する取り組みを紹介した。
- ・学校給食センター運営委員会、地場農産物利用推進委員会を開催した。



栄養教諭の学校訪問（小学1年生）



「高知」かつおフライの献立

#### 成果と課題、今後の取組

- ・給食週間の「四国4県と宮城県の料理」の提供は、コロナ禍で黙食が定着し、旅行等が難しい中で、郷土料理が味わえたと好評であった。
- ・各種会議で給食運営に対して、給食週間での取り組みや地場農産物の利用など多様なご意見等をいただいた。
- ・野菜生産農家等の紹介動画を制作し、農産物や生産者のことを子どもたちに知ってもらう取り組みができた。



## 施策2 学校給食施設・設備の整備・充実（学校給食センター）

### 令和4年度実施状況

- ・回転釜や空調設備等に故障などが発生した場合は、速やかに適切な修繕を行った。
- ・学校給食の提供に支障がないよう、設備の保守点検を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・定期的な保守点検で、給食提供に支障のない設備運営ができた。
- ・経年劣化した食器消毒保管機、包丁まな板殺菌庫等の調理機器を更新した。
- ・施設設備の老朽化が懸念される。今後も安心安全な給食の提供のため、個別整備計画に基づき、計画的に整備を行っていく。

## 3 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備

### 重点施策1. 安心安全で開かれた学校づくりの推進

#### 施策1 学校評議員の活用及び学校評価等の公開による開かれた学校づくりの推進（大郷小学校）

##### 令和4年度実施状況

- ・7月に予定していた第1回評議員会を9月に延期して実施した。第2回評議員会は2月に実施し、事前に評価シートを記入していただくことで、充実した協議となった。



##### 成果と課題、今後の取組

- ・授業参観の時間を設定し、タブレット端末を使った学習やALT（外国語指導助手）の授業、理科専科教員の授業等を参観していただいた。児童が積極的に発言する姿や、タブレット端末を使いこなす様子を見て、たくさん褒めていただいた。



## 施策 1 学校評議員の活用及び学校評価等の公開による開かれた学校づくりの推進（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 7月と2月の年2回、学校評議員会を実施した。
- ・ 生徒及び保護者対象の学校評価アンケートを年2回実施し、その結果と考察及び対策を保護者に周知した。
- ・ 学校だよりにより写真を多くし、視覚的に情報を伝える工夫を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・ 学校評議員会の際には、実際の授業を見ていただき、ICTを活用した英語の授業等に評価をいただいた。また、家庭の教育力の向上や地域で子どもを育てる観点からご意見をいただき、学校教育の推進の参考になった。
- ・ 学校評価をGoogleフォームを活用して行い、効率的に保護者の意見を集約することができた。また、保護者からの意見等を検討し、次年度の学校経営に活かすことができた。
- ・ 学校だよりを19号発行し、開かれた学校づくりの一助になっていると考える。次年度は、ICT支援員の配備をお願いし、学校ホームページの開設等、より開かれた学校づくりを推進していきたい。

## 重点施策 2. 教育相談体制の推進

### 施策 1 校内指導体制の充実（大郷小学校）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ 心のアンケートを毎月実施し、児童一人ひとりが抱える悩みや困り感の把握に努めた。解決へ向けて全教員で支援を行い、行きたくなる学校づくりをめざしてきた。
- ・ 職員会議の際に、各学級の児童の気になる様子について情報交換を行い、全教員で見守る体制を整えた。
- ・ スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、心のケア支援員と連携し、それぞれの立場での関わりができる体制を整えた。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・ 生徒指導主任が心のアンケートを集約し、各学級担任及び学年主任等に個々の事案の状況と対応を確認した上で、職員会議での情報共有を効果的に行った。
- ・ 各学年の状況からスクールカウンセラーの介入が必要な案件の検討を行い、担任を通じて保護者の意向を確認し相談につなげる取組を地道に行った。今後も継続する必要がある。

## 施策 1 校内指導体制の充実（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・毎週水曜日に生徒指導部会を開き、各学年生徒指導担当に加え、スクールカウンセラーを交え、気になる生徒について共通理解を図り、複数の目で対応策を検討するようにした。
- ・悩みや課題を抱えた生徒に、スクールカウンセラーとの相談を勧めた。
- ・教育相談（二者面談、三者面談）を通して、担任が生徒全員と直接話し、生徒の悩みや問題に寄り添って支援を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・生徒指導部会に、スクールカウンセラーを交えたことによって、生徒の抱えている悩みの早期発見、支援につなげることができた。
- ・教育相談により、生徒の悩みの軽減を図るだけでなく、進路や学習、学校生活への目標を持たせることができている。
- ・スクールカウンセラーへの保護者の相談が少ないため、次年度は保護者への啓蒙を行い、カウンセリングを受けることへの抵抗感を低くしていきたい。

## 施策 2 心のケアハウス事業の推進（ケアハウス「とらいあんぐる」）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・令和 4 年度 ケアハウス開設 2 1 7 日 受け入れ児童・生徒数 延べ 1 1 3 2 名  
自立サポート 1 1 4 5 件  
保護者支援 5 7 8 件
- ・高校進学 4 名（田尻さくら高等学校 2 名、貞山高等学校 2 名）
- ・学校復帰 4 名
- ・8 月以降、来所者が急増し十分なサポートが出来なくなってきた。県や町に要請して 1 0 月からは 2 名、町からは臨時で 1 名のスタッフ増員がかないケアを何とか継続することができた。

### 成果と課題、今後の取組

- ・ケアハウスに来所する 4 名の中学 3 年生をすべて、高等学校に進学させることができた。
- ・小学 6 年生 3 名、中学 2 年生 1 名を 4 月から学校復帰につなげることができた。令和 5 年 1 0 月の段階で 4 名とも学校につなげることができている。
- ・メディアの使用について、自分でコントロールできるところまで高める必要がある。活動するタイムテーブルや活動シートなどを見直して、自分でメディアにかかわる時間に見通しをもてるように体制を整えたところである。

## 施策2 心のケアハウス事業の推進（学校教育課）

### 令和4年度実施状況

- ・みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業費補助金を活用し、ケアハウスの運営及び施設の維持管理を行った。
- ・他のケアハウスの取組や支援方法、不登校に対応した高校の学校経営や卒業後の進路について研修をするため、ケアハウス職員が田尻さくら高等学校並びに貞山高等学校を視察した。
- ・ケアハウス職員と指導主事で、児童生徒の様子や支援方法について、毎月情報交換を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・スーパーバイザー1名、コーディネーター3名を配置した。その日に来所する児童生徒の個々にあった支援を行うため、スタッフ数が不足する場合がありますボランティアの協力や学校教育課職員が対応することもあった。今後も連携を深め、児童生徒個々の支援にあたっていく。

## 施策3 関係機関との連携強化（大郷小学校）

### 令和4年度実施状況

- ・不登校傾向にある児童について、ケアハウスの職員と積極的に情報交換を行った。
- ・スクールソーシャルワーカーと連携し、保護者の悩みや児童の特性、家庭の状況等を把握し、関係者で支援の在り方について協議検討した。
- ・定期的に医療機関を受診している児童については、保護者と確認した上で学校での生活や学習の様子を紙面で情報提供したり、保護者を通して医療機関のアドバイスを受けたりするなどの連携に努めた。

### 成果と課題、今後の取組

- ・当該児童の学級担任とケアハウス職員との情報交換を定期的に設定し、同一步調で支援に当たることができた。また、保護者や本人と確認の上、学級担任がケアハウスでの児童の活動の様子を見て、励ましや承認する機会を持つことができた。
- ・医療機関からのアドバイスを当該児童の支援に活かし、特性に配慮した対応が出来るよう今後も校内での支援会議や研修を深める必要がある。

### 施策3 関係機関との連携強化（大郷中学校）

#### 令和4年度実施状況

- ・不登校担当の教諭を中心として、月1回「心のケアハウス」と情報交換する場を設けた。
- ・スクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、生徒、保護者の悩みや問題の解決に努めた。
- ・教頭が中心となり、生徒の状況によっては、医療機関やその他の相談機関を家庭に勧めるなどして、学校、家庭、各関係機関が連携し、問題の解決を図るよう努めた。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・「心のケアハウス」の職員と月1回情報交換の場を設けたことにより、通所している生徒の様子を細かく把握することができた。3年生の生徒については、「心のケアハウス」を担当が訪問して進路相談を行ったことにより、全員が希望していた高校へ進学することができた。
- ・教員や保護者がSSWと継続的に面談を行い、問題解決に向けての道筋を共有し、行動目標を設定することができている。



### 施策3 関係機関との連携強化（心のケアハウス「とらいあんぐる」）

#### 令和4年度実施状況

- ・小・中学校との情報交換を月に1度の定期化した。ケース会議のような大きな構成人数ではなく、ケアハウス職員と学校担任レベルでのより具体的な場面での情報交換は、ケアハウスでのケアに活かしたり、学校とのつながりをつくるきっかけづくりにもなった。
- ・中学校進路指導主任がケアハウスで進路説明会を開催した。また、中学校担任が入学願書の下書きや清書などをケアハウスで実施して受験に臨む準備ができた。
- ・町民バスやJRを利用して、生徒と共に3回 高等学校見学を実施した。自分で学校を決めるのに大きな力となった。高校側とも細やかに打ち合わせをさせていただき、当日には丁寧に説明していただくことで、生徒はより具体的な進学イメージをもつことができた。
- ・SSWのケアハウスへの来所が軌道にのり、保護者の相談件数も大きく増加し保護者のサポートにつながった。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・ケアハウス来所の生徒をケアして、元気を取り戻すケアをできたのは大きな成果であるが、学校に来れずケアハウスのことも知らない生徒が数多く存在することも確かである。ケアハウスの存在を知らせる工夫が必要である。
- ・義務教育を終えても、家に引きこもって動けない家庭もある。そのような家庭でもケアハウスで受け入れる体制を考えていく必要がある。町民課や保健福祉課等とのより一層の連携が望まれる。

### 施策3 関係機関との連携強化（学校教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・こども園長・小・中学校校長会議にケアハウスのスーパーバイザーが出席し、小・中学校での不登校対応、ケアハウスの状況について情報交換することで、不登校児童生徒の現状についての共通理解を深めた。
- ・家庭への支援が必要と思われる事例があった場合は、町民課や保健福祉課と連携し、小・中学校、ケアハウス、学校教育課でケース会議を開き、情報を共有した。
- ・児童生徒の抱える様々な問題に環境面から支援するため、スクールソーシャルワーカー1名を配置し、小・中学校及びケアハウスで月2回情報交換するとともに、不登校児童生徒の保護者の相談に応じた。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・今後もこども園長・小・中学校校長会議で、不登校児童生徒の現状について共通理解を深め、協力して対応にあたる。
- ・小・中学校、ケアハウス、学校教育課、町民課、保健福祉課で情報の共有が必要な案件があった場合は、適宜ケース会議を開催する。
- ・スクールソーシャルワーカーを引き続き配置し、相談体制を整備するとともに、小・中学校とケアハウスの連携を強化する。



### 重点施策3. 時代のニーズに即応した教育環境の整備

#### 施策1 ICT教育の環境整備と充実（大郷小学校）

##### 令和4年度実施状況

- ・GIGAスクール構想の推進を図るため、外部での研修を積極的に活用し伝達講習を行う等教員の研修の充実を図った。
- ・タブレット端末や電子黒板の効果的な活用方法について、外部講師を招いて研修を行った。また、大郷町のICT推進委員に委嘱された教員が中心となって、アプリやツールの活用方法、授業での活用の具体例など積極的に情報発信を行った。

##### 成果と課題、今後の取組

- ・タブレット端末を授業のどの場面でどのように効果的に使うことができるのか教員が創意工夫をしながら実践に取り組んだ結果、教員と児童相互のICTスキルの向上につながった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインによる集会活動を行い、教師だけでなく児童自らが、画面越しに相手に伝えるために工夫して活動に取り組むことができた。参集型とオンライン型両方の良さを、次年度の教育課程編制に活かしていきたい。



#### 施策1 ICT教育の環境整備と充実（大郷中学校）

##### 令和4年度実施状況

- ・学習用タブレットの破損や紛失がないように、毎日の点検確認や保管庫の施錠の徹底を行った。
- ・年度当初に、ICT研修会を実施し、学習用タブレットや大型電子黒板の使い方や、ロイロノート等のアプリの活用方法について、教職員の理解を深めた。

##### 成果と課題、今後の取組

- ・ロイロノートの研修では、ロイロノートの利点を学ぶことができた。
- ・学習用タブレットを効果的に使い、個に応じた個別最適な学びになるよう、ICTを活用した授業づくりを推進する必要がある。また、様々なアプリ等の活用を、教職員間で研修し、ICT教育を推進していきたい。

## 施策 1 ICT教育の環境整備と充実（学校教育課）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・ G I G Aスクール構想に基づき ICT教育を推進するため、小・中学校の情報教育担当者等各 2 名、学校教育課職員を委員とする大郷町 ICT教育推進委員会を年 3 回開催した。
- ・大郷町立学校情報機器使用規定及び大郷町立学校学習情報通信機器貸与事業実施要綱に基づき、学校内での活用の定着、家庭へのタブレット端末の持ち帰りを促進した。

### 成果と課題、今後の取組

- ・ ICT教育推進委員会で、小・中学校での ICT機器の活用状況や活用に伴う課題等を情報共有することができ、今後の活用に生かすことができた。

## 施策 2 家庭・地域と連携し、安全なスクールバス運行（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・スクールバス利用児童に乗車指導を行った。6年生のバスリーダーが中心となって乗車のルールを守るよう、学級担任及び担当が指導を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・バスリーダーや上級生の声掛けで、多くの児童はルールを守ることができた。
- ・スクールバス運行について担当が連絡を密にすることで、連絡調整が円滑に行われた。次年度も、早目の連絡調整を心掛けていく。

## 施策 2 家庭・地域と連携し、安全なスクールバス運行（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・大松沢地区の生徒がスクールバスを利用している。令和 4 年度から、小学校との乗り合いとなった。
- ・2月の新入生保護者説明会にて、スクールバスの運行計画を説明し、バスの経路や停留所について確認した。
- ・毎月の登下校の詳細な運行時間を学年便りに載せ、保護者に周知を図った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・小学校との乗り合いとなり、より細かな運行計画を立てることが必要になった。
- ・学校行事等で予定が遅れた場合に、運行時間の変更ができず、臨機応変な対応が出来ない場合があった。
- ・バス内の感染予防対策もしっかりとされており、バスを起因としたクラスターは発生せず、安全安心に生徒が利用できている。

## 施策 2 家庭・地域と連携し、安全なスクールバス運行（学校教育課）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・児童生徒の安全な通学のため、小学校で通学距離が 2 km以上となる児童を対象に 7 路線、中学校で大松沢地区に居住する生徒を対象に 1 路線で、スクールバスを運行した。小学生 2 2 4 名、中学生 2 1 名が使用した。
- ・スクールバス運行契約は、令和 4 年度から新たな契約締結した。学校教育課内、まちづくり政策課、小・中学校、バス事業者と協議し、限られた財源の中で持続可能で、より効果的で効率的な運行ができるように検討した。

### 成果と課題、今後の取組

- ・議会から住民バス、ふれあい号、スクールバスの利用者の利便性を考慮した、総合的な公共交通体制の検討を求められており、関係各課と検討し、スクールバスの利便性、全体的な費用対効果から、引き続きスクールバスとしての運行を継続した。
- ・令和 4 年度からのスクールバス運行について経費節減のため、大松沢地区を小・中学生乗り合わせとした。

## 重点施策 4. 上級学校進学への支援

### 施策 1 奨学資金貸与制度を奨励し、上級学校へ進学する機会の拡充（学校教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・広報おおさと及び大郷町ホームページで、奨学金貸与について掲載し、貸与希望者を募集した。
- ・経済的に就学困難な高校生、専門学校生、大学生等の進学を支援するため、令和 4 年度新規貸与者 3 名を含む 1 0 名に、高校生月額 30, 000 円、専門学校生以上月額 40, 000 円の奨学金を貸与した。なお、令和 4 年度の奨学金償還対象者は、7 2 名であった。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・奨学資金制度を今後も広く町内に P R する。
- ・奨学資金の償還金が新たな貸与金になることを踏まえ、滞納者に電話催告、督促状送付、納付相談を実施した。今後も引き続き償還を求めていく。

## 施策 2 住民バス運行等による公共交通機関への接続確保（学校教育課）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・住民バスは、高校進学時の通学、スクールバス以外の児童生徒の通学の手段となることから、必要に応じて住民バス担当課と情報交換を行った。

### 成果と課題、今後の取組

- ・議会から住民バス、ふれあい号、スクールバスの利用者の利便性を考慮した、総合的な公共交通体制の検討を求められており、全体的な費用対効果、利便性について今後も検討していく。

## 4 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進 重点施策 1. 地域全体で子どもを育てる環境づくり

### 施策 1 ボランティアによる登下校指導（大郷小学校）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・児童の登校を見守るため、地域の方々に安全指導をしていただいた。
- ・例年ご協力いただいているバスボランティアについては、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため実施することができなかった。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・地域の方々に協力をいただき、児童が安全に登校することができた。また、児童の校外での危険な行動や危険場所についても情報を寄せていただき、指導などの対応をすることができた。

### 施策 1 ボランティアによる登下校指導（社会教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・スクールバス乗降支援（新 1 年生に対する乗降支援）として、4 月～5 月にかけて個人ボランティアやどんぐりの会、更生保護女性会の協力を得て実施をしていたが、新型コロナウイルス感染症対策により中止となった。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・新型コロナウイルス感染症対策により中止となり、地域住民等と協力して実施することができなかった。
- ・活動するボランティアの固定化・高齢化を避けるため、人材の育成・確保を推進する。



## 施策 2 関係団体との連携強化（大郷小学校）

### 令和 4 年度 実施 状 況

- 交通安全教室や防犯教室では、地域の駐在所や交通指導隊の方に安全な歩行や自転車走行の仕方について指導していただいた。
- 社会科や総合的な学習の時間において、複数学年で出前授業や校外学習の際に、ゲストティーチャーや外部講師として児童に様々なことを教えていただいた。特に、農作物の栽培や鶏や牛の飼育については、地域の長年農業に携わってきた方をお招きし、直接その思いを聞くことができ、貴重な学びの時間となった。



### 成果と課題、今後の取組

- 稲づくりの学習では、実際に農業に関わる方に話を聞き、田植えや稲刈りなどについて直接教えていただきながら体験することができた。
- プログラミング学習の一環としてドローン操作体験教室を実施した。ドローンの活用方法について動画で詳しく教えていただいた。子どもたちが講師の先生に教えてもらいながら操作に挑戦したが、十分な活動時間が確保できなかった。次年度は、学年の発達段階に応じて内容及び時間設定の工夫をする必要がある。





## 施策 2 関係団体との連携強化（大郷中学校）

### 令和 4 年度 実施状況

- ・1・2学年の総合的な学習の時間において、ゲストティーチャーを招いて、ドローンを活用したプログラミング学習を実施した。
- ・10月に、大和警察署と協力し、非行防止活動に参加するボランティア活動（アルカス運動）を行った。
- ・更生保護士の方々と、道の駅おおさとで「社会を明るくする運動」に参加し、パンフレット等を配付した。



### 成果と課題、今後の取組

- ・ゲストティーチャーによる専門的な指導と実際にドローンを操作するという学習を行えたことにより、生徒の興味関心を高めることにつながった。
- ・非行防止活動や「社会を明るくする運動」に生徒会役員を中心に参加することにより、社会貢献についての生徒の視野を広げることができた。

## 施策 2 関係団体との連携強化（社会教育課）

### 令和 4 年度 実施状況

- ・「家庭教育支援事業」「地域活動支援事業」「学校教育支援事業」において、関係団体に協力をいただく予定だった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策の観点から、実施できないものも多かったが、環境整備支援を行うことができた。
- ・松島自然の家で行われた自然体験学習事業では、7月豪雨により宿泊施設での安全対策が間に合わず急遽中止となってしまった。

### 成果と課題、今後の取組

- ・関係団体との連携強化を図れるように、活動のねらいや内容を明確にして実施していく。
- ・今後は地域住民や関係団体と連携の強化が大切であり、地域と子どもたちの繋がりを深められるように働きかけたい。

## 重点施策 2. 協働教育推進事業の展開

### 施策 1 魅力ある教育活動を推進する人材の確保・活用（社会教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・学校教育支援事業である環境整備をボランティアの協力のもと事業を実施した。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりを推進する事業を、地域住民等と協力し実施した。
- ・地域住民に対し、継続した協働教育推進事業の周知を図りながら、活動するボランティアの固定化・高齢化を避けるため、人材の育成・確保を推進する。

## 重点施策 3. 放課後子ども教室事業の推進

### 施策 1 学習活動の推進（社会教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・郷子舎は、小学 1 年生～6 年生の児童を対象に、放課後に宿題、読書、自由遊びなどを、週 1～2 回（月・木）、約 2 時間実施する予定だった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策により、実施出来なかった。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・事業の在り方を見直し、視点を変えた活動方法を検討し環境整備の改善が必要である。

### 施策 2 体験学習の充実（社会教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・新型コロナウイルス感染症対策により、実施出来なかった。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・様々な体験学習を実施できるよう事業を検討していく。
- ・子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

## 5 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

### 重点施策1. 社会教育・生涯学習事業の推進

#### 施策1 生涯学習情報の発信、学習機会の提供及び支援（社会教育課）

##### 令和4年度実施状況

- ・各種事業や教室など募集チラシの配布、町広報への掲載などさまざまな情報発信や学習機会を提供した。
- ・町公式SNS（LINE）を活用し、各種事業の募集案内等の周知を行い、情報発信をした。

##### 成果と課題、今後の取組

- ・SNS等のなどの情報ツールを活用し、各種事業について、町民に情報提供をすることができた。
- ・参加しやすい事業の検討や、各世代に合ったツールを用いての情報発信を図る。また、関係機関や地域住民と協力し地域に根差した学習機会を設けられるよう努める。

#### 施策1 生涯学習情報の発信、学習機会の提供及び支援（中央公民館）

##### 令和4年度実施状況

##### (1) 子ども（親子）対象事業の実施

事業名	開催回数	参加者数（延べ）
・公民館だより発行	4回	—
・お菓子作り教室	3回	親子23組・46名
・おもしろ科学実験教室	1回	8名
・親子ドローン体験教室	1回	親子7組・15名

##### (2) 高齢者対象講座の開講

事業名	開催回数	参加者数（延べ）
・喜楽喜楽倶楽部	6回	136名

##### (3) 一般成人対象講座の開講

事業名	開催回数	参加者数（延べ）
・レディース倶楽部	6回	85名
・メンズ倶楽部	3回	20名

##### (4) 趣味・教養講座

事業名	開催回数	参加者数（延べ）
・エコクラフト教室	3回	17名
・ちょっとおしゃれなお料理教室	1回	11名
・寄せ植え教室	3回	54名
・簡単たのしいエクササイズ教室	3回	13名
・初心者のためのスマートフォン体験教室	1回	13名

・世界の料理ミステリー クッキング教室	1回	7名
・炊飯器で仕込む味噌作り 教室	1回	7名
・「大人の社会見学」	2回	17名

(5) 図書室の充実強化

○図書貸出状況

利用者居住地区	利用人数(延べ)	貸出冊数
・大谷地区	1,387人	3,707冊
・粕川地区	404人	1,037冊
・大松沢地区	182人	386冊
・町外(仙台管内)	184人	481冊
・移動図書	13回	376冊
・合計	2,170人	5,987冊

\*貸出冊数のうち 一般書 3,073冊 児童書 2,914冊

\*前年度比 利用人数 +633人 貸出冊数 +1,663冊

○令和4年度図書購入・寄贈冊数

・一般書 購入 78冊 寄贈 1,066冊 合計 1,144冊

・児童書 購入 121冊 寄贈 598冊 合計 719冊

**成果と課題、今後の取組**

- ・検温、手指消毒、マスク着用等、新型コロナウイルス感染症対策に十分注意しながら事業を実施した。コロナ禍で外出を控える中でも、高齢者を中心に見込みと同程度の参加があった。
- ・親子や子どもを対象とした講座は参加者が年々減少傾向にある。こども園、小学校を通して募集プリントを配布するなどしているが、講座内容の検討など更なる工夫が必要である。
- ・公民館移転に伴い、未就学児やその保護者の図書室利用が増えているので、今後も誰もが利用しやすい環境の整備、利便性の向上に努めていく。
- ・ケアハウスに本の移動貸出を継続的に行った。今後も互いに連携を図りながら本の有効活用を図っていく。

## 施策 2 社会教育団体の支援及び社会教育指導者の育成（社会教育課）

### 令和 4 年度 実施 状況

- ・社会教育団体へ補助金を交付し、活動を支援した。
  - 「大郷町青少年健全育成町民会議」 70千円
  - 「大郷町子ども会育成会」 80千円
  - 「大郷町青年団」 50千円
- ・大郷町青少年健全育成町民会議では、事業において青少年健全育成啓発活動を支援した。
- ・大郷町子ども会育成会では、町内各地区子ども会への活動支援やジュニア・リーダー活動の支援や育成に努めた。
- ・大郷町青年団では、定例会等の活動への施設貸出や、青年活動の企画や運営、情報発信を行うなど支援をした。

### 成果と課題、今後の取組

- ・各社会教育団体の事業に対し、助言や運営補助を行うことで、円滑な活動実施に貢献できた。また、活動場所として町施設を提供するなど、活動への支援を行った。
- ・今後の活動について支援を継続的に行い、各社会教育団体の活動が活性化するよう努める。
- ・社会教育団体への支援及び社会教育指導者の育成は、継続して実施していく必要がある。そのためには必要な人材の育成や体制が求められるため、各種支援の方法や指導者の育成について検討し改善が必要である。



### 施策3 社会教育施設の改修・整備（社会教育課）

#### 令和4年度実施状況

##### ・社会教育施設の整備状況

施設名	整備内容	事業費
文化会館	(繰)電動椅子シーケンサーユニット修繕	2,416千円
〃	ホール天井災害復旧	1,078千円
〃	電動椅子災害復旧	513千円
大松沢社会教育センター	体育館災害復旧	616千円
〃	屋外通路災害復旧	38千円

#### 成果と課題、今後の取組

- ・各施設について、利用者が安心安全に利用できるよう整備や修繕に努めた。
- ・令和4年3月に起きた福島県沖地震の影響で破損した社会教育施設について、災害復旧工事を実施し原状回復することができた。
- ・各施設ともに、経年による改修や修繕等が見込まれるため、整備点検を行い施設の維持管理に努める。

### 施策3 社会教育施設の改修・整備（中央公民館）

#### 令和4年度実施状況

##### 【中央公民館】

- ・令和4年度は実績なし。

##### 【各分館】

- ・川内分館 … 外壁塗装 468千円（補助率50%）
- ・長崎分館 … 既設犬走撤去新設 354千円（補助率50%）
- ・丸山分館 … 外壁塗装 330千円（補助率50%）
- ・上郷分館 … エアコン設置 59千円（補助率50%）
- ・上村分館 … 照明撤去新設(LED) 167千円（補助率50%）
- ・上町分館 … エアコン設置 211千円（補助率50%）
- ・下町分館 … 屋根外壁塗装 1,237千円（補助率50%）
- ・吉ヶ沢分館 … 漏水修繕 132千円（町負担50%）
- ・江戸沢分館 … エアコン設置 310千円（補助率50%）

#### 成果と課題、今後の取組

- ・各分館からの要望に対し補助金の交付を行った。築20年以上経過する分館が増え、改修工事や塗装工事が多くなっている。今後も各行政区と協議しながら、利用者の利便性や安全性を図るよう努めていく。

## 重点施策 2. 青少年の健全育成の推進

### 施策 1 青少年健全育成の啓発活動への支援・協力（社会教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・大郷町青少年健全育成町民会議に対し、70千円の補助金を交付し、継続的な活動支援を行った。
- ・研修会は実施できなかったが、青少年健全育成啓発活動を支援した。
- ・少年の主張仙台地区大会は、大郷中学校体育館を会場に13名の中学生が発表を行った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・新型コロナウイルス感染症対策により研修会を実施することができなかった。参加しやすい研修内容の検討や、他の企画、事業との連携を図っていく。
- ・継続した「大郷町青少年健全育成町民会議」の活動の周知を図り、青少年の健全育成活動がより町民に浸透していくよう事業の検討や企画を行っていく。

### 施策 2 ふれあい交流事業等、各種体験活動への参加促進（社会教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・松島自然の家を会場に1泊2日の自然体験学習事業について、小学6年生20名、ジュニア・リーダー5名で参加予定だったが、7月豪雨により急遽中止となった。
- ・親子参加型創作講座「おやこ創作クラブ」は実施できなかった。
- ・ジュニア・リーダー活動では、他市町村のジュニア・リーダーとの交流や地域の児童との交流を通じて、仲間づくりや自己研鑽の機会を広げている。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・自然体験、社会体験、宿泊体験等の様々な体験学習を実施できるよう事業を検討していく。
- ・各種事業において、地域住民やジュニア・リーダーに積極的に協力してもらい、児童と地域の方々が交流できる機会を設けられるよう図っていく。また、参加しやすい事業を検討していく。

### 重点施策3. ライフステージを踏まえた公民館事業の展開

<b>施策1 各種団体、地域コミュニティ組織活動への協力（中央公民館）</b>
<b>令和4年度実施状況</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 公民館を拠点として活動する団体への助言、援助</li><li>・ 大松沢コミュニティ推進協議会、ふれあいセンター推進協議会組織の支援</li></ul>
<b>成果と課題、今後の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 公民館を活動拠点とし、代表者を中心に会員相互の連携をもとに運営している団体に対して、活動の助言や施設利用の援助を継続的に行った。会員の高齢化、新入会員の減少などの課題があるが、継続して活動を行えるよう支援していきたい。</li><li>・ 地域コミュニティ組織については、令和4年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から限定的な事業実施にとどまったため、実質的な補助金交付を行わなかった。今後は、社会情勢に合わせて各団体の活動再開がスムーズに進むよう指導助言に努めていく。</li></ul>

## 施策2 地域に根差した分館活動の活性化支援（中央公民館）

### 令和4年度実施状況

#### (1) 分館長会議及び分館活動の支援

##### ○分館長会議

実施日	内容	備考
4月13日（水）	・総会書面決議資料送付	
5月12日（木）	・総会書面決議結果報告	
6月3日（金）	・役員会	6名出席
6月18日（土）	・研修会（講話と実技）	7名出席
8月27日（土）	・研修会（講話）	4名出席
9月18日（日）	・移動研修会（荒浜・閑上エリア）	9名出席
12月21日（水）	・全体会	10名出席
1月28日（土）	・黒川地域公民館分館長・公民館協力員大会	16名出席
3月10日（金）	・監査会 ・役員会	8名出席

##### ○分館活動の支援

- ・分館活動運営費交付金 基礎額35,000円＋世帯割額×世帯数
- ・各分館活動への助言

### 成果と課題、今後の取組

- ・総会は昨年度に引き続き書面決議となったが、役員会、全体会は対面で開催し、様々な意見交換や情報交換を行うことができた。研修会への参加率の低さが未だ顕著なため、地域活動により役立つ内容について検討していきたい。
- ・令和2年度からつづく新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として各地区の分館活動が大きく制限されたが、昨年度に比べると少しずつ活動を再開してきている地区も見受けられる。今後も社会情勢を考慮しながら活動再開がスムーズにすすめられるよう、情報の提供と活動の支援に努めていく。

## 重点施策4. 地域文化・芸術の振興

### 施策1 文化・芸術を身近に触れる機会の提供（社会教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・中学校全生徒を対象とした「青少年劇場小公演」は、10月3日にひとりオペラ「ペロ出しチョンマ」の鑑賞を実施した。
- ・小学校全児童を対象とした「音楽アウトリーチ事業」は、11月2日に「津軽三味線」の演奏鑑賞を実施した。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・事業を通し、児童・生徒にアーティストによる生の音楽鑑賞や芸術技能に触れる機会を与えることができた。
- ・「青少年劇場小公演」「音楽アウトリーチ事業」では、児童生徒に対し、さまざまな種類の芸術・文化に触れる機会を提供するため、異なる内容で企画する。また、一般町民に対する芸術・文化の鑑賞機会を検討していく。

### 施策2 文化団体の育成と連携強化（社会教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・様々な行事が新型コロナウイルス感染症対策により中止となったため、芸能発表や作品展示の実施ができなかった。
- ・活動を制限していたが、文化協会の団体紹介を掲載した「芸文おおさと」の発刊を行った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・会員の減少・高齢化の影響から、所属団体数が減少してきている。（現在21団体）
- ・高齢化により会員自身のモチベーションに影響が出ないように、引き続き所属団体への継続した支援等を実施する。
- ・他市町村の文化協会等と情報交換をしながら、相互に活動発表の機会を設けるなど、やりがいが見いだせる育成支援に取り組む。



## 重点施策5. 文化財の理解と保存・継承

### 施策1 文化財の保存・管理体制の充実（社会教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・11月17日、町文化財保護審議会委員と協働し、町指定文化財・遺跡のパトロールを実施した。場所は、樋場下遺跡、遠多田遺跡、大谷館遺跡、浦木戸遺跡、深谷遺跡の5箇所、保全状況等について調査した。
- ・町指定文化財7箇所（諏訪古墳、山中古墳、大小寺遺跡、大松沢貝塚、箭楯神社、鹿島神社、支倉常長子孫の墓）について、管理・保全業務を地域団体等に委託し、文化財の環境保全に努めた。
- ・文化財保護審議会を開催し、町文化財の維持管理・活用方法、パトロールの実施等について審議した。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・文化財の現状把握のため、文化財パトロールを実施した。
- ・文化財にかかわる工事について、現地確認や立会調査を実施し、文化財の破壊や不適切な工事を防ぐ指導を行い、環境保全に努めた。
- ・文化財の腐食、劣化を防ぐため保存を計画的に行う。
- ・文化財保護に関する専門職員の配置がないことから、県の協力が不可欠である。文化財保護の観点からも、組織体制の充実強化が最優先である。

### 施策2 郷土芸能の伝承と活動支援（社会教育課）

#### 令和4年度実施状況

- ・町無形文化財である羽生田植踊保存会、宮林神楽保存会に対して、必要に応じ、活動や後継者育成に関する支援、助言を行った。
- ・羽生田植踊保存会は、児童館や中学校で定期的に練習を行い、後継者育成に取り組んだ。
- ・宮林神楽保存会は、新型コロナウイルス感染症対策の点から活動を休止した。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・宮林神楽保存会は、継承者の体調が思わしくない中、後継者の育成を図っている。しかし、学校活動との両立もあるため、定期的な活動の実施などが見込めない状況である。
- ・羽生田植踊保存会は、児童館や中学校での定期的な活動により後継者育成に取り組んでいるが、大人の担い手が不足している状況に変わりはない。
- ・無形文化財については、新しい担い手育成が難しい状況が続いている。また、両保存会ともに指導者が高齢化しており、健康面からも指導が難しくなっているのが現状である。引き続き関係者との連携を図り、広報活動の活性化等、活動の周知・支援をしていく。

## 重点施策 6. 生涯健康・生涯スポーツの推進

### 施策 1 生涯スポーツ推進体制の整備（社会教育課）

#### 令和 4 年度 実施 状況

- ・スポーツ推進委員会及び審議会の会議を年 2 回開催し、協議する場を設けた。
- ・町体育協会への活動支援として、施設使用料の減免と補助金（729 千円）の交付を行った。
- ・町スポーツ少年団本部への活動支援として、施設使用料の減免と補助金（220 千円）の交付をした。また各スポーツ少年団に対しては施設使用料の減免等の支援を行った。

#### 成果と課題、今後の取組

- ・新型コロナウイルス感染症対策により町主催のスポーツ大会や教室が縮小または中止となり、スポーツを行う機会を提供できなかった。しかし、スポーツ推進委員会及び審議会において、町のスポーツ事業についての改善点等を協議し、各事業の見直しを図った。
- ・町体育協会、スポーツ少年団については、町の育成団体として施設使用料の減免や補助金等の助成を行い、各団体の活動が活性化するよう支援を行った。
- ・今後も町のスポーツ施設の整備や各スポーツ団体への支援を継続し、子どもたちや町民の方々がスポーツを楽しめる環境作りに努める。

## 施策 2 各種スポーツ大会・教室の実施（社会教育課）

### 令和 4 年度 実施 状 況

#### ・各種スポーツ大会について

期 日	内 容	備 考
4 月 29 日	第 32 回 B & G 財団会長杯大郷町招待少年柔道大会	24 チーム
10 月 29 日	おおさと秋まつり スポーツフェスティバルの部 ベガルタ仙台サッカー教室 ノルディックウォーキング体験会	小中学生 35 名 13 名
2 月 25～26 日	第 38 回 B & G 財団会長杯大郷町春季ゲートボール大会	6 チーム
3 月 12 日	第 38 回 B & G 財団会長杯県下招待大郷町剣道大会	35 チーム

#### ・各種スポーツ教室について

実施期間	内 容	備 考
1 月 7 日～8 日	宮公武協 10,000 人寒稽古	101 名

水辺の安全教室&カヌー体験、水遊び教室・水泳教室、ハンドボール教室、陸上クリニック、おおさと冬期スポーツ教室は中止となった。

### 成 果 と 課 題 、 今 後 の 取 組

- ・各種スポーツ大会・教室について、新型コロナウイルス感染症対策により、スポーツ教室のほとんどが中止となった。宮公武協 10,000 人寒稽古については、柔道・剣道の指導者のもと、換気やマスク着用など感染症対策を行いながら実施をした。
- ・B & G 財団会長杯は、各大会共に 30 回を数える歴史ある大会であり、町内外から参加者が集まる。参加者にとって日頃の練習の成果を出す機会となっているため、大会を開催できるよう努めていく。
- ・各種教室についても参加児童・生徒の安全性を確保して開催できるよう検討し、子どもたちの運動習慣の定着や興味関心を広げる機会としていく。

### 施策3 スポーツ施設の改修・整備（社会教育課）

#### 令和4年度実施状況

施設名	整備内容	事業費
フラップ大郷21	横看板修繕	51千円
〃	トイレ修繕	275千円
〃	災害復旧（正面入り口）	363千円

#### 成果と課題、今後の取組

- ・当町の生涯スポーツの中心的拠点であるフラップ大郷21等の施設を、利用者が安心安全に利用できるよう整備や修繕に努めた。
- ・令和4年3月に起きた福島県沖地震の影響で破損した社会教育施設について、災害復旧工事を実施し原状回復することができた。
- ・各施設ともに、経年による改修や修繕等が見込まれるため、整備点検を行い施設の維持管理に努める。

## Ⅵ 点検・評価に対する学識経験者の意見

### 1. 意見聴取と取りまとめについて

令和4年度事業の点検・評価に対し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に基づき、松崎正美評価委員と熊谷智子評価委員に大郷町教育基本方針に定めた5つの基本方針ごとに意見を頂いた。

### 【松崎正美 評価委員による意見】

#### 基本方針1 学ぶ力と自立する力の育成

授業での基本的なマナーとしての「大郷小・中学校9年間の学習ルール」を教室に張り出すことで、児童の共通認識が深まるものと考えます。これが浸透していくことで、他の生活面での波及効果も期待できます。

外国籍の児童、生徒に対する指導については、文科省、県及び周辺自治体などと情報交換しながら、適宜対応することが必要である。

目的意識を持ったり、将来の目標を決めたりすることは極めて大切なことだ。そのような意味で、不登校の生徒が、ケアハウスに通う中、高校進学を果たせたことは、意味深く感じる。

特別支援学級の児童、生徒の指導については担当者会議をはじめ、特別支援コーディネーターとの連携や特別支援学校から協力を得るなど児童・生徒一人ひとりの個性、特性を生かそうと努力する姿がうかがえる。

#### 基本方針2 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

外国籍の児童・生徒と交流することで知らず知らずのうちに、外国に関心が芽生えるような環境を大切にしていきたいと思います。

ふるさと教育は、自分のふるさとに自信や誇りを持ち、人づくりに大きく寄与するといわれている。副読本が様々な授業で生かされているのもうなずける。そこには、他にはない大郷らしさがたくさん書いているに他ならない。副読本に登場する人や物、場所などたくさんの人から話を聞いたり、行ってみたり、試してみたりするのも楽しいと思う。

学校給食センターの献立は、大郷らしさが生かされ、ふるさと教育を意図して作られているように感じる。

#### 基本方針3 安心安全で信頼され魅力ある教育環境の整備

ケアハウスに通う生徒が高校進学できたのもケアハウスの存在と指導に当たった職員の皆さんの信頼関係ができていたものと推測できる。



学校・保護者・ケアハウス・スクールカウンセラーが連携を取りながら、児童や生徒を支援することが、必要不可欠になりつつあるように感じる。

#### 基本方針4 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

交通安全のルールや農作業のやり方を地域の人々から教えてもらったり、「社会を明るくする運動」で更生保護関係者とともに有機的活動を展開している。顔が見えることで、あいさつ運動への展開も期待できる。

町には各種ボランティア団体や文化、スポーツ団体の他にも様々な団体がある。教育委員会所管の団体も複数あり、連携を試みることもそれほど難しいことではない。

#### 基本方針5 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

施設等の管理・図書や各種備品等の貸し出し・事業の企画、募集、実施運営まで一人何役も受け持ちで従事されていることがうかがわれる。他に専門職的な文化財関連と関係団体の育成など含まれている。既存の施設、設備の特性を生かし、知識・技能を持った町民と連携を図った事業展開を期待する。

### 【熊谷智子 評価委員による意見】

#### 基本方針1 学ぶ力と自立する力の育成

基礎・基本を重視した確かな学力の定着の推進については、タブレット端末を活用した「できた」と実感の持てる指導や復習プリント等を用いた反復学習の継続により、個の能力に応じた指導に工夫と実践をすることで、自主的に学習に取り組む意欲や基礎力を身に着けた児童・生徒の様子がうかがえ、学習環境の整備に向けた先生方の努力が見られました。

今後も「分かる授業」「魅力ある学校づくり」の推進と学力向上に向けた取り組みを継続する必要がありさらなる工夫を期待いたします。

#### 基本方針2 国際性を備えた豊かな心と健やかな体の育成

国際理解教育、外国語教育の充実については、ALT及び外国籍の児童・生徒と授業を受けたり活動することで、国際理解を深め言葉の枠を超えたコミュニケーション能力の育成に繋がるとともに、外国への興味を持つきっかけづくりになりうる取り組みであると感じました。

指導計画に基づく体力づくりの指針については、小学校では休み時間に先生方が児童と一緒に外で遊ぶ活動、中学校では5分間走や補強運動など基礎的な体力向上

を図ることで、外での活動が少ない生活の中でとても良い取り組みであり継続して頂きたいと思います。

食育指導の充実については、栄養教諭が小学校では給食の時間に学級を巡回し献立や栄養について話をしたり、学校畑で栽培した野菜を使った献立を学校給食で提供していました。中学校では学校訪問による給食指導など、残食を減らす努力と食に対する関心を高める工夫が見られました。

健康でたくましく元気な大郷の子どもたちの育成になお一層の創意工夫を期待いたします。

### 基本方針3 安全安心で信頼され魅力ある教育環境の整備

児童生徒が抱える悩みや困りごとは千差万別であり、軽減を図るためには本人と相談相手（先生・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・心のケア支援員など）の信頼関係なくしてはなし得ないものだと考えます。

そのような中、心のケアハウス事業の推進において、一人ひとりに寄り添いつつ心のケアハウス「とらいあぐる」に来所する4名の中学3年生が希望する高校へ進学し、小学生3名、中学生1名を学校復帰に繋げたことは大きな成果であると思います。

今後も学校と父兄、関係機関との連携を図りつつ、いまだに家から出られず心のケアハウスにも行けない児童生徒がひとりでも「行ってみようかな」と一歩を踏み出すような工夫に努めて頂くことを期待いたします。

家庭・地域と連携し、安全なスクールバスの運行については、児童生徒の減少が進む中、大松沢地区のスクールバスを小・中学生乗り合わせに変更したことは経費節減等の観点からも大きな成果であったと思います。

児童の減少は大松沢地区に限らずどの地区においても同様であり、経路やバス停などを含め毎年見直しを行っていると思いますが、引き続きより効率的な運行経路、乗車人数に見合ったバスの種類などの工夫も検討されることを要望いたします。

### 基本方針4 学校・家庭・地域が連携することによる協働教育の推進

関係団体との連携強化については、コロナ感染対策で行動制限がある中、工夫を凝らし出前授業や校外学習においてゲストティーチャーや外部講師と様々な活動が実施できたことは子どもたちの良い体験であったと思います。

コロナ感染症で行動制限により思うような活動がまだまだ難しいところではありますが、少子化が進む中、地域住民や各種団体と関わる機会を設けながら顔見知り

になることで、互いに親しみや思いやりを持ち協力しながら事業が進められることを期待いたします。

“子どもは地域の宝” 学校と地域が連携した活動をおし、見守り・支援・声がけすることで子どもが育つ環境がさらに良くなることを願っています。

#### 基本方針5 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

生涯学習情報の提供発信、学習機会の提供及び支援については、感染対策を考慮しながら事業を実施せざるを得ない中、見込んだ参加数があったことは、住民の学習意欲が感じ取れ良い成果であったと思います。

また、図書室に親子などの来所が増え、貸出冊数も増加していますが、今後更に工夫されて利用しやすい場所となり来所者が増えることを期待します。

文化・芸術を身近に触れる機会の提供については、児童生徒がアーティストによる生の音楽・芸術に触れる事業は、感性と情操を高める貴重な時間だったと思います。

各種スポーツ大会・教室の実施については、スポーツ教室のほとんどが実施できなかったことは残念でした。その中でも秋祭りにおいて外で行ったスポーツフェスティバルの部でベガルタ仙台サッカー教室が実施され、プロの選手からの指導は子どもたちに喜びと感激、そして夢を与えた貴重な事業だったと思います。

今後も様々な種目で子どもたちに夢と希望を与えられる事業が実施されることを期待いたします。

文化財の保護管理については、文化財保護専門員不在の中、本町の貴重な文化財が適正に保護管理されるよう関係機関（県等）に協力を依頼するなど、早急に組織体制づくりに努められることを要望いたします。